

オラファー・エリアソン《太陽の中心への探査》2017年 金沢21世紀美術館蔵 ©Olafur Eliasson
「オラファー・エリアソン ときに川は橋となる」展示風景（東京都現代美術館、2020年）
撮影：福永一夫

特別展示： オラファー・エリアソン

2022年7月23日(土)～
9月11日(日)

金沢21世紀美術館でオラファー・エリアソンの話題作《太陽の中心への探査》を収蔵後、初お披露目
エコロジーと再生可能エネルギーへの関心から生まれたサステイナブルな実践が、
現在のエコロジー下における芸術の可能性を提示し、私たちがマジカルで新しい知覚体験へと誘います

展覧会名	特別展示：オラファー・エリアソン
会期	2022年7月23日(土)～9月11日(日)
休場日	月曜日（ただし8月15日は開場）、8月16日
開場時間	10:00～18:00(金・土曜日は20:00まで) ※観覧券販売は閉場の30分前まで
会場	金沢21世紀美術館 展示室14
料金	一般 750円(600円)/ 大学生 520円(410円) 小中高生 260円(200円)/ 65歳以上 600円 ※本展観覧券は同時開催中の「金沢21世紀美術館と国立工芸館の所蔵作品によるコラボレーション展『ひとがた』をめぐる造形」との共通です。 ※()内は団体料金(20名以上)及びウェブチケット料金
主催	金沢21世紀美術館[公益財団法人金沢芸術創造財団]
お問合せ	金沢21世紀美術館 TEL：076-220-2800

本資料に関する
お問合せ

金沢21世紀美術館 担当学芸員：立松由美子、野中祐美子
広報担当：石川聡子、齊藤千絵、落合博晃
〒920-8509 金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814 FAX 076-220-2802
<https://www.kanazawa21.jp> E-mail: press@kanazawa21.jp



展覧会概要

オラファー・エリアソンは1990年代初めから、写真、彫刻、ドローイング、インスタレーション、デザイン、建築など、多岐にわたる表現活動を展開してきました。とりわけアートを介したサステイナブルな世界の実現に向けた試みにおいて国際的に高い評価を得ています。

本展覧会は、エリアソンのエコロジーと、再生可能エネルギーへの関心から生み出された作品《太陽の中心への探査》を収蔵後初めてお披露目するものです。本作品は、ガラスで覆われた多面体と太陽光発電ユニット（ソーラーパネル及び蓄電池等電源供給システム）により構成されています。作品の中心部に光源が取り付けられており、そこから突き出したアームの先のライトがゆっくり回転することによって、部屋の中央に固定してつられたガラスの多面体があたかも回転しているかのように、光が動いて部屋を照らし出します。スタジオ・オラファー・エリアソンの開発した偏光フィルターが装着されたガラスの多面体からの光は部屋全体に銀河のように輝クリフレクションを投射し、見る者を作品世界へと没入させ、魅了します。それは我々の生存に欠かせない太陽とその周囲を公転する惑星との関係を想起させるとともに、この世界を成り立たせている構造や法則への志向も見てとれます。

光庭に設置したソーラーパネルから得た電気エネルギーを得て動く本作品は、地球環境の不可逆的な変化に見舞われている私たちに、伝統的な進歩史観への再考を促し、持続可能な社会に向かう新しい視点と呼び覚まします。本展覧会を通じ、現在のエコロジー下における芸術の可能性と、複合多面体と光の反射が生み出すマジカルで新しい知覚体験をお楽しみください。

作品の特徴**金沢21世紀美術館がオラファー・エリアソンの話題作
《太陽の中心への探査》を収蔵後、初披露**

金沢21世紀美術館は、2020年に東京都現代美術館で開催されたオラファー・エリアソンの大規模展「オラファー・エリアソン ときに川は橋となる」で話題となった《太陽の中心への探査》（2017年）を2021年度新規収蔵作品としてコレクションしました。この度、当館は本作品収蔵後、初めて、《太陽の中心への探査》をお披露目します。

**オラファーのエコロジーと再生可能エネルギーへの
関心から生まれたサステイナブルな実践**

オラファー・エリアソンのエコロジーと再生可能エネルギーへの関心から生み出された本作品は、太陽光をエネルギー源とし作動するシステムです。環境が地球規模で変化し、逆戻りできない状況に直面している今日において、私たちに人間中心の文明の繁栄ばかりを志向する考え方への再考を促し、持続可能な社会に向かう新しい視点と呼び覚まします。

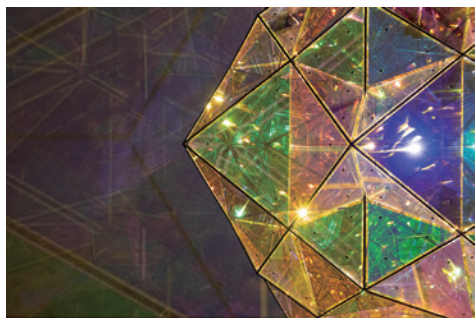
**エコロジカルな視点で生み出された本作品が
私たちをマジカルで新しい知覚体験へと誘います**

ガラスで覆われた複合多面体と太陽光発電ユニットによって構成された本作品が、当館の特徴ある円型の展示室に設置され、展示室全体に輝クリフレクションを投射します。鑑賞者は作品の周りを歩きながら、自身の知覚体験が変容していくのを感じることでしょう。

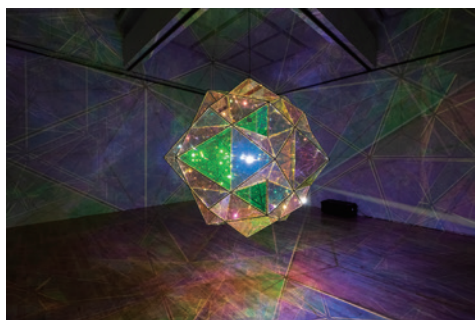
作家プロフィール

オラファー・エリアソン Olafur Eliasson

1967年コペンハーゲン(デンマーク)生まれ。現在、ベルリンとコペンハーゲンを拠点に活動。デンマーク王立美術アカデミーで学んだ後、ベルリンに渡り、スタジオ・オラファー・エリアソンを設立。光、水、色、鏡などを使い、人間が目に見える現象をどのように認識するかということに関心を抱き、その認識がどのように形成されるかという過程を探求する作品で世界的に知られている。1995年ヴェネツィア・ビエンナーレに初参加以来、シドニー・ビエンナーレ、サンパウロ・ビエンナーレ(いずれも1998年)、横浜トリエンナーレ(2001年)など、世界的な国際展に参加。2003年、テート・モダン(ロンドン)のタービン・ホールで発表した《The Weather Project(ウェザー・プロジェクト)》は、特に大きな成功を納め、日本においても広くその名を知らしめることになった。2008年にニューヨークのウォーター・フロントに4基の人工の滝を出現させたパブリック・アート等、大規模なインスタレーションが特徴的である。2014年、建築家のセバスチャン・ペーマンと共同でスタジオ・アザー・スペースを設立。日本での主な個展は原美術館(2005年、東京)、金沢21世紀美術館(2009-10年、石川)、東京都現代美術館(2020年)がある。



オラファー・エリアソン《太陽の中心への探査》2017年 金沢21世紀美術館蔵
©Olafur Eliasson
「オラファー・エリアソン ときに川は橋となる」展示風景(東京都現代美術館、2020年)
撮影:福永一夫



オラファー・エリアソン《太陽の中心への探査》2017年 金沢21世紀美術館蔵
©Olafur Eliasson
「オラファー・エリアソン ときに川は橋となる」展示風景(東京都現代美術館、2020年)
撮影:福永一夫



オラファー・エリアソン《太陽の中心への探査》2017年
金沢21世紀美術館蔵 ©Olafur Eliasson
「オラファー・エリアソン ときに川は橋となる」展示風景、
太陽光発電ユニット(ソーラーパネル及び蓄電池等電源供給システム)
(東京都現代美術館、2020年)
撮影:福永一夫

広報用画像

画像1~4を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、当館プレスルームの画像提供ページからお申し込みください。

https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/

[使用条件]

※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。

※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。

※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報課へお送りください。

※アーカイヴのため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。